

# 郷土読本 「小田原」



# 小田原



小田原市教育研究所編

## 郷土読本「小田原」の刊行によせて

私たちが暮らすこの小田原は、森里川海がそろそろ豊かな自然環境に恵まれています。箱根に連なる緑の山々、恵み豊かな相模湾に囲まれ、足柄平野の肥沃な大地の中央に酒匂川の清らかな水が流れる、風光明媚なまちです。これらの自然環境と一年を通して温暖な気候から、古来より人々にとってたいへん住みよい地域とされ、かつては難攻不落の小田原城を擁する城下町や東海道屈指の宿場町として、大いに栄えた歴史を有しています。

また、東京から南西に80kmという優れた立地から、現在も、交通の要衝・結節点としてさまざまな役割を担い、産業面では、多彩な農業や水産加工業、高い品質を誇る木工業、精密加工技術分野の事業所が集積するなど、神奈川県西部の中心都市として発展を続けています。

このように、私たちのまちには、多くの先人たちによって築かれてきた長い歴史と、多様な文化や伝統、なりわいが息づき、今も連綿と受け継がれています。これら小田原の多様な地域資源を知り、学ぶことは、ふるさとを愛する心を育むとともに、皆さんが未来の小田原のまちや社会への夢を描き、実現するための力を培う原動力になると信じています。

小田原市では、現在、社会が直面する多くの難題を乗り越え、その先にある「誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと小田原～いのちを守り育てる地域自給圏～」を実現するため、市民の皆様や地域、学校、地元企業や関係団体との連携を深め、協働の実践を推進しています。こうした取組のさらなる拡大と充実、担い手となる人材育成を、今後も全力で進めていく考えです。

この本が、これからの時代の主役である皆さんにとって、ふるさと小田原に思いを巡らせ、自分自身の将来や生き方を見つめる“きっかけ”となることを心から願っています。

結びに、本書の刊行を喜ぶと共に、執筆編集の労をとられた各位に敬意と感謝の念をささげ、あいさついたします。

令和7年3月

小田原市長 加藤 憲一

## 序

みなさんは、「生きる」とはどのようなことだと思いますか？

私は、人が「生きる」ということは、地球環境や人間社会の中で、豊かに自然や人と関わり、自分らしく輝いていくことだと考えます。そして、人が「生きる」ということは、連綿と続く歴史の中の貴重な一人として、より良い世の中を作り、歴史を次の未来へつなぐことだと考えます。そしてそのためには、「社会力」を身につけることが必要です。

みなさんが「社会力」を培うために、この小田原の豊かな「自然」、産業や交通の盛んな「社会」、先人から受け継いだ「歴史・文化」と関わることを大切に学んでほしいと思います。

この郷土読本「小田原」は、その学びの1つとして、授業でも扱いやすく皆さんが分かりやすいように、昭和45年から何度も改訂を重ね、まとめられています。よく読んでみると、今まで身近にありながら見過ごしてきたものに、その意味や奥深さを改めて感じることができるでしょう。身近な物事を見つめ直し、自分との関わりを再認識することを通して、この素晴らしいまち小田原で生きることの喜びを体全体で実感し、小田原に生きる誇りをもってほしいと願っています。

本書は、小田原市の中学校だけでなく小学校教員にも配付し、郷土読本の内容や背景を踏まえた学びづくりが実現されるようにしています。小学校での学習を踏まえ、仲間と地域について語りあい、響き合い、高め合っていくことを期待しています。また、令和4年度から中学校で始まった「小田原版STEAM教育」における探究的な学びにも大いに活用していただきたいと思います。

結びに、この度の改訂にあたり、資料提供をしてくださった皆様、並びに指導・助言をくださった先生方のご厚意に対し、心から御礼申し上げます。

よりよい郷土の発展を期待して、序に代えさせていただきます。

令和7年3月

小田原市教育委員会教育長 柳 下 正 祐

# 目次

## 第1章 郷土の自然

1	位置と面積	9
2	地形・地質	11
1	三つの地域	11
2	河川	15
3	海底の地形	17
4	小田原市とその周辺で産出する石材	18
5	足柄平野の伏流水と井戸	19
3	大地の成り立ち（地史）	20
1	小田原周辺	21
2	箱根火山	24
4	気象	26
1	気温と降水量	26
2	風向と風力	29
3	温暖化による環境への影響	30

## 第2章 郷土の歴史

1 小田原のあけぼの —旧石器・縄文・弥生—	32
1 狩猟と採集の生活	33
2 水田耕作と金属文化の伝来	39
2 古代の文化 —大和・奈良・平安—	42
1 久野の円墳と田島の横穴基	43
2 相模国と国府・官道	45
3 民衆の生活と信仰	49
4 荘園の発達	51
3 武士の世の中 —鎌倉・室町—	55
1 源頼朝と武士の政権	55
2 鎌倉府の支配と小田原地方	62
4 小田原北条氏と小田原 —室町(戦国時代)・安土桃山—	66
1 北条五代	68
2 小田原の繁栄と文化	79
5 藩領下の小田原 —江戸—	93
1 城下町「小田原」	93
2 旅と宿	99
3 農村の生活と二宮尊徳	103
4 産業の発達と特産物	120
5 多彩な文芸	127
6 明治の夜明け	134
6 近代のあゆみ —明治・大正・昭和—	137
1 苦難な明治の小田原	137
2 教育の発展	143
3 近代文学と小田原	148
4 近代産業のめばえ	153
5 明治の海しょうと関東大震災	158
6 よみがえる小田原	162

## 第3章 現代と生活

1 小田原市の発展と人口	165
2 小田原市の産業	174
1 小田原の工業	174
2 小田原の農業	180
3 小田原の漁業	183
4 小田原の商業	185
3 整備される交通	186
4 向上する市民生活	192
1 生活環境	192
2 社会保障	207
3 教育と文化	208
5 暮らしと政治	212
1 行政	212
2 財政	217
6 あすの小田原	220
1 時代と社会の認識	220
2 まちづくりの考え方	220
3 目指すまちの姿	221
小田原歴史年表	222
主な参考文献	228

# 小 田 原 市 民 憲 章

わたくしたちは、黒潮おどる相模湾にのぞみ、海の香におう天守閣をあおぐ「小田原」の市民です。わたくしたちは、先人の残した文化を誇りにし、西湘の近代都市としての限りない発展に願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

- 一、 **健康で明るい生活を大事にし、豊かな心をそだて  
ましょう。**
- 一、 **元気で働くことを喜び、しあわせな家庭をきずき  
ましょう。**
- 一、 **隣人と仲良くし、だれにもやさしく親切にしま  
しょう。**
- 一、 **きまりを守り、力をあわせ、住みよいまちをつく  
りましょう。**
- 一、 **緑と水を大切にし、平和な明日の繁栄につとめま  
しょう。**

